

土居昌弘の大分県議会議員活動報告

羽ばたき

平成27年新春
第13号

民主主義の挑戦!! 輝き合う社会を求めて

土居昌弘公式ホームページ
<http://doi-masahiro.net/>

編集：暮らし考房「もやい」 発行：土居昌弘
土居昌弘連絡事務所 〒878-0005 竹田市挾田670番地
TEL 0974-62-4848 FAX 0974-63-0124

第28回大分県消防操法大会



入町大会で56秒。竹田市大会が55秒。そして、県大会で48秒台を出して優勝したのです。そして全国大会で好成绩を取るために、このタイムをいかに短縮していくかが課題に。県消防学校

の代表として、大分県下の消防団員の代表として、全力をぶつけての渾身の操法。その結果、なんと42秒台を記録。競技の後は皆で肩をたたき合い、これまでの苦労をねぎらいました。しかしです。審査の結果が理解できません。成績は、77・5点で、出場24チーム中18位。選手はもちろん関係者も含め、皆が衝撃を受けたのでした。



東京都江東区の東京臨海広域防災公園で行われた第24回全国消防操法大会。小型ポンプの部で6番目に登場した竹田市消防団は、スピード満点の操法を繰り広げました。



競技終了後の様子。精一杯の力を出し切り頑張りました! 大切なのはこれからです。(左から久保亨さん、那須隆広さん、私、森田政利さん、工藤剛志さん、大久保聡明さん) 吉川元(はじめ)衆議院議員もエールを送ります。

操法では、防火水槽からポンプで給水し、火事現場を想定した火点に放水し、撤収するまでの一連の手順を演じ、その操作や動作を減点法で審査します。そこで審査のひとつのポイントとなるのが、火点を放水で倒すまでのタイムです。直入方面隊第1分団第3部のチームは、

全国大会の現実

消防団にとって、昨年は特別な年、操法大会の年でした。消防操法とは、基本的な消火操作の習得を目指すことを目的とした、日本の消防訓練です。第二次世界大戦後から消防団の訓練形式として盛んに行われていました。地域の消防団の皆さんは、できる限り自分の正業に支障が出ないように、早朝や夜に集まっては練習を繰り返し、操法の技術を身に着けます。竹田市消防団直入方面隊第1分団第3部の皆さんもそう。可搬式の小型ポンプを使った操法をする団員。年が明けてから練習を開始し、4月にあった直入町大会で優勝。6月には、各地域を勝ち抜いてきた竹田市消防団員同士が競い合う竹田市大会でも優勝。さらに8月、県下市町村の優勝チームが戦う県大会でも、見事優勝! 長い間の厳しい練習の成果で、全国大会への切符を手にしたのです。

3回続けて45秒台が出るまで練習を終えることはできませんでした。11月8日、ついに全国大会。竹田市消防団

大分県一の消防団が残してくれたもの

地域づくりの原点

消防学校は反省しています。タイム重視の指導に偏り過ぎ、操作の安定感、移動のリズム、士気などの指導が足りていないことが判明。今大会で気づいた課題の克服に向け、新たな取り組みを始めました。

実は、地域づくりでも、こういうことがよくあります。地域づくりを起こす側が、地域の求めるところを察することができず、独りよがりな取り組みに埋没してしまうことが。過去の色メガネをはずし、自分の思い込みを捨てて、地域社会を見る。今、自分たちは何を求められ、何をしなければならぬのか。このことをできる限り客観的冷徹な視点を持って明らかにし、そこで明白となった方向に向け、私たちは前進していきます、そのことを地域の個性にまで伸ばしていきたいかなければならぬのです。

直入の操法の選手たちなら、今回の貴重な体験を必ず次のために活かしてくれると信じていますし、私自身、今回学んだ教訓を地域づくりで活かしていきたいと考えています。

現実から目をそらさない

地域の課題をしっかりと受けて共有し、その内容を深く調査。見えてきたヒントを集めながら解決に持っていく。これが議員の仕事です。



農家の方々が所有していることもしばしば。地域の農地を守っていくために、理解を求めていかなければなりません。さらに、阿蘇山噴火による降灰被害。露地の葉物野菜や椎茸、栽培施設の屋根などに付着する火山灰の影響が、今年の生産計画策定の邪魔をします。

米価も下落。大分県農業再生協議会は「水田フル活用ビジョン」を掲げ、改善していこうとしています。この豊かな農業を守るため、頑張ります！



いまだに値が安い乾しいたけ。しいたけ農家の苦しみが伝わってきます。今年度が踏ん張りどころです。国・県・市も積極的な振興策を打っています。私も大分県議会農林水産委員長として厳しい現状を打開していきます。



米価格が下落しています。野菜の一部もそう。乾しいたけの安値も長引いています。ある農家の方は「もう意欲を削がれた。地域の農業は衰退し、農地は荒れ果てるだろう」と打ちひしがれ、農村消滅の警鐘を鳴らします。また、かつては穂が実る農地でしたが、その地主はすでに子や孫の世代に。荒れかけの農地は、竹田市外で生活をする非

苦しい農業



徳田靖之弁護士などと、障がい者が安心して暮らせる大分県づくりを進めています。

たなんて。障がいのない人の関わり合いの範囲と、障がいのある人の関わり合いの範囲は、それぞれが別々。それぞれ



平成26年度 園長特別研修会

特別な支援を必要とする幼児の保育について、議論を深めながら支援策を練ります。

人と人との関わり方にも問題があります。例えば、障がい者との関わり方です。定年退職された方が、障がい者福祉施設のお手伝いをしていいることがあります。汗をかきながら、障がいを持った利用者と共に働いていますが、そのような方々は必ずこう言います「こんな世界があつ

関わり方の問題



国会議員と県議会議員が竹田市で被災対策会議。知恵を集めました。

去年の2月14日の大雪被害。広瀬知事も荻町の被災地を訪れ、被害状況を把握しました。



ここでは農業と障がい者福祉の課題があります。そうあってあたりまえ。問題が



平成24年7月の九州北部豪雨被害。竹田市民はこの悲惨な現状をみんなで乗り越えていっています。行政も市と県と国とが一体となり、復旧ではなく改良による復興施策を進めました！

災害からの復興

が、それぞれの社会で生きています。これでは、すべてを包み込んだ社会とは言えません。

のない社会などありません。ここで重要なことは、それらの問題にどう対峙し、どう解決しようとしているかです。平成24年7月に竹田市は甚大な自然災害を受けましたが、私たちは深く傷つきながらも、そこからの再起を誓いました。被災状況を正確に把握し、二度と災害が起きないようにするためには、どうしたらいいのか検討・協議し、その過程の中から選び出した最善の策で復興事業を進めました。そして重要なのが、このところを竹田市と大分県、そして国とが、力を合わせて取り組んだことなのです。

地域が輝くとき

虫の目、鳥の目、魚の目。虫の目とは、地に面して現場を見る目です。鳥の目は、高いところから全体を頭に入れて物事を見ます。そして、潮の流れや干潮満潮の流れを見逃さないのが魚の目です。実は、地域づくりには、この視点が大事です。現場の課題を正確に把握し、「木を見て、森を見ず」にならないよう大局観でも捉え、それを時代の流れを見極めながら解決策を打ち出していく。地域の課題を解決していこうと思えば、課題に対峙する時の、この態勢が大事なのです。これからの地域社会をかたちづくる、市と県と国。三者が手を取り、足らないところを補完し合いながら、それぞれの持つ特徴を尊重し、連携というより一体となって、地域の課題解決に取り組んでいくこと。このことができるかどうかで、地域の輝きが違ってきます。もちろん、県議である私は、市と国との連結を確認しながら、地域の輝きが増していくよう、地域課題解決に努めていきます。

理想を忘れない

人脈を活かして思いを実現していきます

地域の願いを叶えるため、国とのネットワークを活用しています。



麻生太郎財務大臣。これからは財源の分配のあり方を考え直さなければならないと考えています。地方創生、地方分権の大事なところですよ。



県選出の国会議員。地域の課題は市・県・国が同じ方向を向いて歩んでいなければ解決は困難。国に地域の現状を伝え、知恵を合せていきます。



「アベノミクスを大分まで届ける。土居県議も頑張る」と安倍晋三総理大臣。私も豊かな郷土を守り、皆が幸せに暮らせる地域をつくりたい。



塩崎恭久厚生労働大臣は「これからは“地域”でという考えが大事」とコミュニティづくりの重要性を強調しました。



地域の郵便局を守り続けた綿貫民輔元衆議院議長。竹田に来て下さり、地域の磨き方を教わりました。竹田市の魅力を磨き続けます。



「地域づくりはシンクタンクやコンサル頼みではダメ。市民の力が大切」と地方創生担当石破茂国務大臣。これから地域の本当の力が試されます。



仕事の後に、村木厚子厚生労働事務次官と乾杯！これからの地域包括ケアシステムの構築について話し合いました。



松島浩道農林水産省生産局長ほか、農産部の課長たちと意見交換。竹田市の現状を伝え、これからの農政について、ともに考えました。



「大分には素晴らしい恵みがある。ここを活かして」と林芳正元農林水産大臣。竹田市の素晴らしい恵みを活かしていきます。



小泉進次郎内閣府大臣政務官。次世代のために、ともに汗をかいた同志です。未来の地域社会を担う子供たちのために汗をかき続けます。



竹田市の交通事情を国土交通委員会の野田聖子委員に。引き続き道路整備を進め、交通アクセスの向上に努めていきます。



厚生労働部会の三原じゅん子副部会長は、地域福祉の設計図づくりは丁寧に、住民を巻き込んでと、アドバイスをくれました。



大分県議会 平成26年 第3回定例会

土居昌弘一般質問

9月2日から17日まで開会されました定例会で一般質問を行いました。商店の開業・廃業にかかわる諸問題への対応策や、久住山の登山道・登山口の整備促進と山の管理体制整備など、県の現在の取り組みを確認のうえ、問題点を改善していけるよう様々な提案をしました。

詳しくは土居昌弘のホームページで議事録を見ることができますが、ここでは竹田市の県立高校に関する問答を紹介します。

実情に合った 習熟度別授業を

(土居議員質問)

竹田高校は豊肥地区唯一の進学指導重点校。県下で8校の進学指導重点校では、習熟度別指導に力を入れている。生徒それぞれの習熟度によって、指導方法を変えて授業をす

ることだ。

しかし、県教委は、県下で行われる習熟度別指導の事業評価を「最難関大学や難関大学への合格者数」という一つの物差しでしか計っていない。上野丘高校と竹田高校とは状況が違う。

「最難関大学合格者数」と併せて、「入学時の学力を確実に伸ばす」という指標で、学力にばらつきのある生徒個々の実情や希望に沿った指導をしていくべきだ。



竹田高校名物「ストーム」。センター試験会場でも円陣を組み、励まし合います。

(野中教育長)

難関大学進学へ向けた環境の整備は大事なことだが、議員指摘のように、生徒一人ひとりの実情に応じた進路指導のあり方も重要だと考えている。

生徒一人ひとりの学力を向上させる取り組みを充実徹底し、地域の進学指導重点校としての魅力を高めていきたい。

学生寮の問題解決を

(土居議員質問)

三重総合高校久住校の学生寮が、かなり傷んでいる。まずは、24年前に旧久住町が国から譲り受けた建物（建設は35年前）の問題。特に、厨房が古くて小さい。また、食堂を通

らなければ部屋に行けないので、食堂が廊下化してしまい衛生的によくはないという構造上の問題も。

さらに、寮の管理面。学生寮の管理主体は、利用する生徒の保護者たちなどをつくる管理運営委員会。竹田市から運営委員会が建物を借り受け、竹田市から補助を受けながら運営されている。大分県はノータッチ。この寮で問題があった時に責任を取るのは運営委員会である保護者たちなのか。

県立高校の生徒が利用する寮の整備と管理の問題。誰が責任を持って改善していくのか。ここをしっかりと整理して、体制整備をするべきだ。

(野中教育長)

久住校の生徒が利用する寮の老朽化の問題と、その管理の問題は、第一義的には所有者である竹田市が改善策を実施すべきだと考えているが、竹田市と管理運営委員会と連携して、どのような対応が考えられるのか、協議していきたい。



民生委員の 選出基準を改める

12月12日に閉会した平成26年第4回定例会で、私がしつこくお願いしていた「大分県民生委員の定数を定める条例」が全会一致で可決されました。

竹田市のような過疎地域では、民生委員の改選の度に、その人数減少が課題でした。



それは選出基準が120世帯から1名となっていたため、世帯数が減っていくとおのずと民生委員の数も減少し、地域福祉の奉仕者がいない区域も出てきています。

それが今回、県独自に90世帯に1名と基準を変更させ、過疎地域でも福祉コミュニティがつくれる体制を敷いてくれたのです。これで県下の民生委員の減少に苦しむ自治体は、この方向で応えていってくれることでしょう。